

## 欧州諸国における公文書館等視察報告

7月17日～24日まで、稲田大臣はイタリア、ポルトガル、イギリスに出張し、各国国立公文書館の視察等を行った。

- |               |                                      |
|---------------|--------------------------------------|
| <u>○イタリア</u>  | 国立ローマ文書館、国立中央文書館                     |
| <u>○ポルトガル</u> | トーレ・ド・トンボ国立公文書館<br>※シャビエル文化担当副大臣とも会談 |
| <u>○イギリス</u>  | 国立公文書館                               |

## ○国立ローマ文書館(ローマ中心部)

- ・イタリア統一前の各国家の中央政府やローマ区域に所在する統一後の国家機関が作成した文書等を保存。
- ・1871年設立、1936年に現在の建物に移転。
- ・書庫は9層、所蔵文書量は約40km。
- ・13世紀に建てられた大学の荘厳な建物を公文書館として利用。
- ・中世ローマの社会生活や建築様式をうかがえる病院の文書は、公文書をストーリーの中に位置づけ、「生きた歴史」に触れさせる好事例。

## ○国立中央文書館(ローマ中心部から約5km)

- ・イタリア統一以降の中央官庁において作成された文書等を保存。
- ・1875年設立。1953年に国立ローマ文書館から現在の建物に移転。
- ・所蔵文書量は約120km。
- ・ローマ市の中心近くの開放感のある新都心地区に立地。正面に大きな教会を臨むなど都市計画上重要な場所に位置する壮麗な建物が充てられており、公文書を重視する姿勢が伝わってくる。
- ・館内に学校を設置し、各省庁担当者等への研修等を実施するほか、大学生のインターンも受入れ。
- ・文書管理のための組織を各行政機関に設置し、公文書館の職員を派遣。



(国立ローマ文書館)



(国立中央文書館)



(中世ローマの病院の由来を記した文書)



(稲田大臣とマルテッリ閲覧室責任者)

## ポルトガル

### ○トーレ・ド・トンボ国立文書館(リスボン中心部から約5km)

- ・5世紀から現代までの文書を保存(トーレ・ド・トンボは「土地台帳の塔」の意)。
- ・1378年設立、1755年のリスボン大地震による建物の倒壊後は文書を分散管理。1990年に現在の建物を新築し、文書を集約。
- ・所蔵文書量は約100km。
  
- ・学校の見学を積極的に受け入れ、子供たちが年間約1万人訪問(ポルトガルの人口は約1,000万人)。その他、所蔵資料を学校図書館を通してウェブで閲覧できるようにすることなどにより、公文書館が国民に身近な施設として定着。
- ・デジタル化した資料を展示にも組み込み、ケース内でめくることができない部分を見ることができるよう設備も工夫(見学では学校側の要望にも柔軟に対応)。
- ・デジタル文書の保存は深刻な課題として、積極的に取り組む。

※議会、外務省の文書は別に管理



本年5月の安倍総理の訪問により「史料館同士の交流を強化」。 (トーレ・ド・トンボ国立公文書館)  
引き続き協力していくことを確認。



(稲田大臣とシャビエル文化担当副大臣との会談)



(稲田大臣とシルベストレ館長らの意見交換)



(日本とポルトガルの修好通商条約を視察)



(紙媒体の資料とデジタル展示の活用)

## イギリス

### ○国立公文書館(ロンドン中心部から約16km)

- ・連邦政府、イングランド、ウェールズの政府機関文書、王室記録、裁判所記録等を保存。
  - ・1838年設立(当初はロンドン中心部チャンスリーレインに所在)
  - ・1978年にロンドン郊外のキューに現在の建物を建設。
  - ・所蔵文書量は約200km
  - ・1996年に新館を建築し、様々な機能を集約。
- 
- ・公文書館は政府の透明性を確保するための重要なツールと位置づけられている。
  - ・次代を担う青少年への働きかけを重視。学校と協力して教育プログラムを作成し、4歳から18歳(年間約2万人)に対して対面での授業やIT技術などを駆使した事業を実施。
  - ・余裕をもって作られた展示スペースの中で、様々な工夫を凝らした展示を実施。企画展は定期的に内容を入れ替え。

※議会の文書は別に管理



(イギリス国立公文書館)



(稲田大臣とブローチャー館長代行)



(展示室—Keeper's Gallery)



(利用者の感想カード)

気に入った展示物の絵や感想を記して他の利用者と共有できる。



(著名作家の講演会案内)

毎月著名な作家の講演会を企画(参加費: 5£(=約860円))。